

10. 英語

10.1. 文法

S:主語 **V**:動詞 **O**:目的語 **C**:補語

10.1.1. SVC 第2文型

I happened to meet him yesterday.

happened to do は「偶然…する」の意味。この **to** 不定詞は補語(C)。
「私は昨日偶然彼に会った。」

What matters is how you play the game.

What は先行詞を含んだ関係代名詞で「…すること」という意味。**matters** は「(事が)重要である」という意味になり、この文の主語(S)。**how** 節は「あなたがどのように試合をするか」で補語(C)。
「重要なことはあなたがどのように試合をするかということ」

10.1.2. SVO 第3文型

I don't know how to use a computer.

how to use a computer は「コンピュータの使い方」という意味。この名詞句は目的語(O)。
「私はコンピュータの使い方を知りません。」

10.1.3. SVOO 第4文型

She told me that he went to Tokyo.

<tell+人+that 節>は「(人)に…と言う」という意味。**me**(O)、**that 節**(O)。
「彼女は、私に彼が東京に行ったと話した。」

10.1.4. SVOC 第5文型

The news made him happy.

<make+人+形容詞>は「(人)を…にする」という意味。**him**(O)、**happy**(C)。
「そのニュースは彼を喜ばせた。」

10.2. never

10.2.1. never do <現在の習慣>

You never think of anything but that child!

「君はいつもあの子のことしか考えていない！」

10.2.2. 省略された応答文での never

"Have you ever seen a panda?"

「パンダを見たことはある？」

"No, I never have."

「いいえ、一度もありません。」

<頻度>を表す副詞 **never** 「決して…ない」は、現在完了の文では、<have never + 過去分詞>の語順になるが、省略された応答文では**"No, I never have."**となる。

10.2.3. Never mind.

"This is too much."

「これは多すぎる」

"Never mind."

「気にするな」

10.2.4. have never been to

I have never been to Madrid.

「私は、マドリッドへは一度も行ったことがない」

have never been to 「…へは一度も行ったことがない」

10.2.5. Never having

Never having seen her before, I didn't recognize her.

「彼女には一度も会ったことがないので、認識できなかった。」

Never having seen her before 「彼女には一度も会ったことがないので」
recognize 「認識する」

補足: 一般的な副詞の位置に対する原則

- 1 動詞を修飾する副詞は、文中では動詞の前、助動詞の後に置く。

I have already finished my homework.

「もう宿題を終えました」

- 2 形容詞・副詞を修飾する副詞は、その前に置く。

Don't walk too fast!

「あまり速く歩かないで」(副詞の修飾)

10.3. will の使い方

10.3.1. 未来

I will be seventeen next month.

「私は来月17歳になります」

10.3.2. 傾向

Accident will occur in the evening.

「事故は夜に起こるものだ」

10.3.3. 習慣

He will sit there for hours doing nothing.

「彼は何時間も何もしないでそこに座っていることがある」

この will は「…するものだ」の意味で習慣を表す。

10.3.4. 習性

Wolves will not come near fire.

「狼は火に近寄らないものだ」

10.3.5. 推測

This will be the book you are looking for.

「これがあなたが探している本でしょう」

10.3.6. 意志

I will make dinner for you.

「私があなたの夕食を作りましょう」

10.3.7. 依頼

Will you please bring me a glass of water?

「水を一杯持ってきてくださいますか」

10.3.8. 命令

You will do as I tell you.

「私の言うとおりにしなさい」

10.4. 現在完了形

10.4.1. 継続

「ずっと…している」 **for...**「…の間」、**since...**「…以来」などの副詞が用いられる。

She has been absent from school for three days.

「彼女は**3日間**学校を休んでいる」

We have known each other for many years now.

「私たちはこれまで**長年の間**知り合いだ」

There has been no rain here for the past two weeks.

「ここでは**過去2週間**雨が降っていない」

How long have you lived here? For over ten years.

「あなたは**どのくらい**ここに住んでいますか?」「10年以上です」

10.4.2. 経験

「…したことがある」 **ever**「かつて」、**never**「一度も…ない」、**before**「以前」、**often**「しばしば」、**once**「一度」などの副詞が用いられる。

I have read the novel before, so I know the end of it.

「私は**以前**その小説を読んだことがあるので結末を知っている」

10.4.3. 完了・結果

「…してしまった」 **just**「たった今」、**already**「すでに」などの副詞が用いられる。

10.5.

10.5.1. The books were laying all over the floor.

「本が床中に散らかっていた」The books (S)、all over the floor (M)、そして were laying には目的語がないので、**laying** は自動詞の現在分詞でなければならない。ところが laying は他動詞 lay「(物)を置く」の現在分詞。laying を自動詞 **lie**「(物が)ある」の現在分詞 **lying** に直せば文法的に正しくなる。

The books were **lying** all over the floor.

10.5.2. I'm looking forward to visit my uncle.

「私は叔父を訪ねるのを楽しみに待っている」**look forward to...**「…を楽しみに待つ」の **to** は前置詞なので、**visit** を動名詞 **visiting** に直せば正しくなる。

I'm looking forward to **visiting** my uncle.

10.5.3. I have to be repaired my watch.

「私は時計を修理しなければならない」**<have[get] + 物 + 過去分詞>**は「(物)を…させる、…してもらう」の意味。**be** を **have[get]** に換えて、過去分詞 **repaired** と **my watch** の語順を入れ替えると正しくなる。

I have to **have my watch repaired**.

10.5.4. There are running four people there.

「そこで4人が走っている」**<There + be 動詞 + S + 現在分詞>**で「**S**が…している」という意味を表す。**four people** (S)と現在分詞 **running** の語順を入れ替える。ただし、文頭に **There** があるので、文末の **there** は重複をさけるために **<in + 名詞>** に書き換えた方が自然。

There are **four people running**....

10.5.5. I would often play baseball when I was a child

「私は子供の頃、しばしば野球をしたものだ」助動詞 **would** は、過去を示す副詞句[節]とともに用いて、「よく…したものだった」という意味の過去の<習慣>を表す。**When** 節の動詞の時制も過去で問題ない。よって、正しい文。

10.6. 仮定法過去

10.6.1. I wish + 仮定法過去

I wish I () harder when I was young.

<I wish + 仮定法過去> 過去に実現できなかったことに対する願望を表す

適切な語句はどれか

1. studied 2. have studied 3. had studied 4. would study 5. didn't study

1→when 節の時制が合わない。

2→when 節の時制が合わない。

4→I wish のあとに助動詞の過去形が続く場合は、<助動詞の過去形+have+過去分詞>でなければならない。

5→I wish のあとの文に過去の否定文がくれば「(現在)…でなければいいのに」という意味になって、文意が通らない。

ゆえに、I wish I **had studied** harder when I was young.が正解

10.6.2. It is time + 仮定法過去

It's time you went to bed. 「もう寝る時間よ」

<It is time + 仮定法過去> 「もう…すべき時間だ」

10.6.3. as if[though] + 仮定法過去(完了)

She speaks **as if she were** my wife. 「彼女はまるで妻のような話し方をする」

<as if[though] + 仮定法過去(完了)> 「まるで…(だった)かのように」

10.7. 関係代名詞

10.7.1. who <主格>

I visited **my uncle, who** was not at home.

「私は叔父を訪ねたのだが、叔父は留守だった」

The skiing school had **ten instructors, who** were excellent.

「そのスキー学校には10人のインストラクターがいたが、彼らは優秀だった」

先行詞 **my uncle** は who の後ろの文では主語の役割を果たすので、<人>を先行詞にする関係代名詞<主格>who が適切。また、下の文では、複数だが、同じく<主格>who が適切。

10.7.2. which

The ship struck **an iceberg, which** tore a huge hole in her side.

「船は氷山に衝突し、氷山は船腹に巨大な穴を開けた」

先行詞 **an iceberg** は which の後ろの文では主語の役割を果たすので、**<人以外>を先行詞にする関係代名詞<主格>which** が適切。

It was **a rare butterfly, for which** some collector paid 100 dollars.

「それは珍しいチョウで、収集者の中には 100ドル払う者もいた」

<pay + 代金 + for + 物>で「(物)に対して(代金)を支払う」の意味になる。

先行詞 **a rare butterfly** は which の後ろの文では前置詞 **for** の目的語の役割を果たすので、最も妥当なのは **<人以外>を先行詞にする関係代名詞<目的格>which**。**<前置詞 + 関係代名詞>**の形の **for which**。

10.7.3. whose <所有格>

I congratulated **Mrs. Jones, whose** son had passed the examination.

「私はジョーンズ夫人にお祝いを述べたが、彼女の息子さん試験に合格したからだ」

先行詞 **Mrs. Jones** と whose の後ろの名詞は「**彼女の息子さん**」という関係なので、**関係代名詞は<所有格>whose**。

10.8.

10.8.1. 前置詞 opposite

If you sit **opposite** me, it's easier to talk than if we sit next to each other.

「もしあなたが私と**対面**に座れば、私たちが隣同士に座るより話しやすい」

opposite: 「…と向かい合って」

10.8.2. 前置詞 without

It was thoughtless of him to climb the mountain **without** a map of the area and a compass.

「その地域の地図とコンパス**なしで**山に登るなんて彼は軽率だった」

without: 「…なしで」

10.8.3. 形容詞 last

Jack would be the **last** person to believe that.

「ジャックは**最も**それを**信じない**人だろう」

<the last + 名詞 + to + 不定詞>は「**最も…しそうでない(名詞)**」という意味。

10.8.4. 接続詞 unless

Unless you watch your step, you'll tumble down the stairs.

「あなたが足元を**見なければ**、あなたは階段から落ちるでしょう」

unless: 「…でなければ」

10.9.

10.9.1. I don't know if or not it is true.

「それが正しいかどうか私にはわからない」

if と whether は「…かどうか」の意味でほぼ同様に用いられるが、if の直後に or not をつけることはできない。ゆえに if の代わりに whether が入る。

I don't know **whether** or not it is true.

10.9.2. Regrettably, I do not agree to you.

「残念ながら、あなたには賛成できません」

<agree with + 人>で「(人)と意見が一致する」という意味。to を with に直せば正しくなる。あるいは、<agree to + 提案>で「(提案)に同意する」という意味なので、you を your proposal「あなたの提案」に変えれば「あなたの提案には賛成できません」という意味になり正しくなる。

Regrettably, I do not **agree with** you.

Regrettably, I do not **agree to your proposal**.

10.9.3. He as well as they are not excellent.

「彼らと同様に彼も優秀ではない」

<A as well as B>が主語になるときは、述語動詞の人称・数は A に一致する。are を is に直せば正しくなる。

He as well as they **is** not excellent.

10.9.4. She worked hard that she may succeed.

「彼女は成功するように一生懸命働いた」

副詞節を導く that には<目的><結果><根拠・理由>などを表す用法があるが、このうち may と最もよく結びつくのは<目的>用法。この場合 that を単独で用いるのはまれで、普通 <so that...may>の形で用いられる。

She worked hard **so that** she **may** succeed.

10.10.

10.10.1. **by way of...** 「…経由で」

We will travel to San Francisco **by way of** Chicago.

「私たちはシカゴ**経由**でサンフランシスコに旅行するつもりです。」

10.10.2. **by means of...** 「…によって、…を用いて」

Our thoughts and feelings are expressed **by means of** language.

「私たちの考え方や感情は言語**を用いて**表される」

10.10.3. **make sense of...** 「…を理解する」

It is extremely difficult to **make sense of** his poems.

「彼の詩**を理解する**のは非常に困難である」

補足:

- **in view of...** 「…の見えるところに」
- **make efforts to...** 「…しようと努力する」
- **give rise to...** 「…を生じる、起こす」
- **in terms of...** 「…の点から」